

両宮山古墳
第5次発掘調査
速報

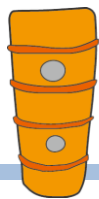
巨大前方後円墳をつくる



平成27年1月中旬から2か月間、両宮山古墳の前方部^{ぜんぼうぶ}前面に5本のトレンチ（試掘溝）を設定し発掘調査を行いました。一番南に位置するトレンチでは、前方部の端近くから1段目のテラスにかけ、元々の地層（地山）の上に、土の固まりを順々に盛りあげて、墳丘をつくっていることがわかりました。上の写真のように、灰色系と白色系の土を積んでいった盛土の様子をはっきりと観察できました。

古墳時代の人々はどのような道具で、どのような方法で土を盛り上げたのでしょうか？土を掘り、運ぶ人たちの息づかいが今にも聴こえてきそうです。





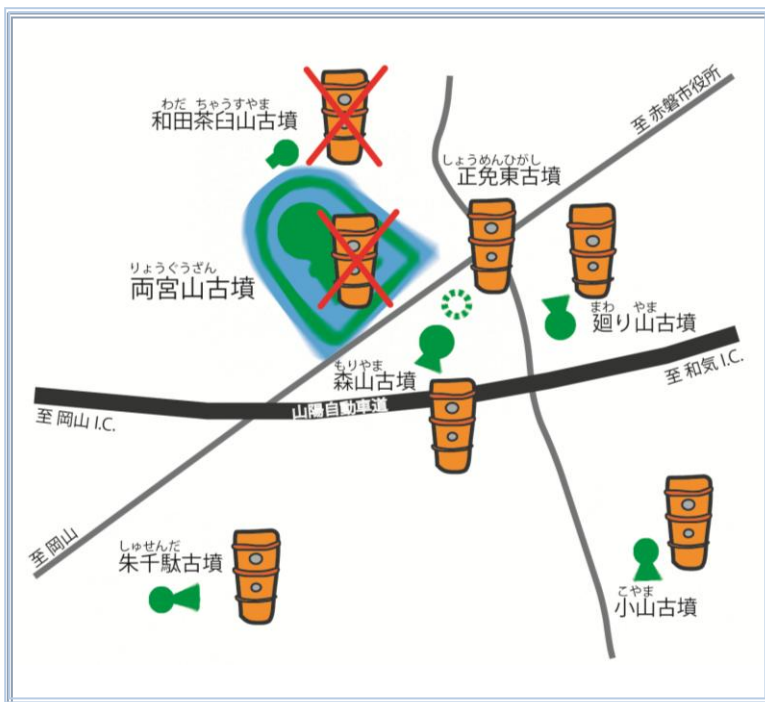
はにわ 埴輪がない、葺石もない??

これまで両宮山古墳の調査では、直接古墳にともなう遺物の出土がありません。墳丘上にめぐらされる埴輪、斜面に葺かれる石も見つかっていません。見つかるのは、古墳をつくるまえにここを住まいとしていた弥生時代の人々が使用した土器や、古墳がつくられて500年以上あとに捨てられた土器です。

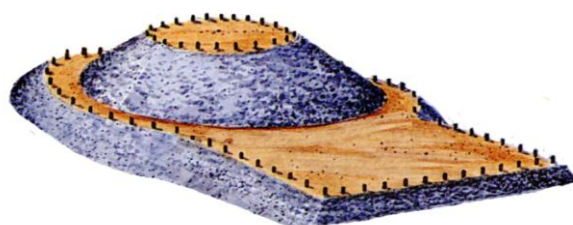
前方後円形にかたち作られた墳丘や二重の濠、その大きさから両宮山はこの地域の^{だいしゅちやう}大首長のお墓として造られたことは確かなのです。両宮山古墳の陪塚である和田茶臼山古墳にも埴輪と葺石がありませんが、周囲の後続する森山古墳や小山古墳などには埴輪がおかれていました。

これは何を意味しているのでしょうか？埋葬にいたるお祀りが行われなかったのでしょうか？もちろん、埴輪や葺石のない古墳もあります。

両宮山古墳は未完成の古墳だったのでしょうか？今後の調査が期待されます。
(注意：石室は調査していません。)



両宮山古墳周辺の埴輪の有無の状況



埴輪と葺石がある森山古墳のイメージ

ローカルアラカルト vol.② ◆両宮神社◆

両宮山古墳の前方部上に、両宮神社が鎮座しています。両宮神社は伊勢神社とも呼ばれており、祭神は天照大神・豊受大神で、伊勢神宮を勧請した神社と考えられます。

両宮神社の石鳥居には「天保七年（1836）」、石灯ろうには「慶応三年（1867）」の年代が刻まれています。江戸時代でも終わりに近い時代のものです。

両宮神社石鳥居の額 ▶

